

第3回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年7月22日(木) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 各審議会委員(欠席者 浅野委員、河島委員、高見委員、福田委員、南委員、山田委員)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長 岸 博一

企画財政課総括主幹 川口 哲治

企画財政課主幹 松田 秀治

企画財政課主任 中村 仁志

[審議事項関係課]

健康福祉課長 松田 孝司

総合窓口課長 毛利 浩

健康福祉課総括主幹 若狭 義高

健康福祉課主幹 和田 正美

健康福祉課主幹 清水 吉朗

健康福祉課係長 西村 広樹

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

(略)

3. 第2回会議録の確認について

4. 会議傍聴者について

5. 審議事項

(1) 「障害者福祉」について

(2) 「地域福祉、低所得者福祉、社会保険」について

(3) 「健康づくり、地域医療」について

健康福祉課長より説明の後、審議

【会長】

- ・認知症の方は、障害者福祉の中でどのような位置づけになるのか。

【健康福祉課長】

- ・障害者への福祉は、基本的に手帳をお持ちの方に対する福祉になる。身体に障害のある方は、身体障害者手帳。知的障害のある方は、療育手帳。精神に障害のある方は、精神手帳。
- ・認知症の方には、基本的には介護保険のサービスを行っている。介護保険のサービスは、65歳以上で、認知症、身体に障害をお持ちの方々を対象に行っている。認知症と障害者は区分けされている。認知症で障害者手帳をお持ちの方もいらっしゃるが、基本的には介護保険サービスで、不足する分は障害者に対するサービスで補っているところ。

【委員】

- ・「医療費の適正化の促進」という課題が（第4次総合計画進行管理書に）書かれているが、“適正な医療費”というのはどの程度の水準をいうのか。

【総合窓口課長】

- ・症状により保険点数に基づき、医療費が請求されている。“適正な医療費”ではなく、「医療費の適正化」ということを記載している。“適正な医療費”というのは、難しい問題で申し上げにくい。
- ・1人当たりの医療費のデータはある。平成21年度でいうと、一般の方々に年間35万7千円。退職者の方々だと、年間31万2千円。これが高いか低いかにいうことになると個々によって違う。

【委員】

- ・私のところにもあなたの医療費はいくらだというのがくる。自分が30万円かかったというだけでは、それを25万円にしようとかという具合にならない。もう一歩進んで具体的な対策がないと課題解決にならない。現状を話しているのではなく、今後10年間の話をしている。

【健康福祉課長】

- ・「医療費の適正化」ということについて説明すると、不要なものまで医療費が請求されていないか、レセプト点検をして本当に必要な医療行為が行われている

るか、そういったことの適正化を図るという意味。

・(第4次総合計画進行管理書に)書かれている課題は、現在考えられる課題。今後10年間どうしたらいいかという解決策は、委員の方々に検討いただけたらと思う。

【アドバイザー】

・第4次総合計画進行管理書のP19、20にある地域福祉についての施策で、「指標の達成度」に「遅滞」が多いが、理由と対策について教えてほしい。

・ほかの施策についてもいえることだが、第4次総合計画進行管理書に「6.施策の今後の方向性」とあるがどのように判断しているのか。

【健康福祉課長】

・「指標の達成度」に「遅滞」が多い理由だが、ボランティアの推進については、新規の登録が難しいということであって、既に登録済みの方々はいろいろと活動されている。講習会を開いて新規ボランティアを増やすという活動が遅れている。

・「6.施策の今後の方向性」だが、これは担当課で現状を踏まえた考えであって、ローリングした上での考えではない。委員で計画を練ってほしい。

【副会長】

・「健やかで安心して住めるまちづくり」というのは市民が主体となることが大事な施策。他の福祉の施策の指標と比べて非常に低い評価になっている。「遅滞」とあるが、本当に遅れているのか。遅れているのであればどうやっていくのか。

・私が直接かかわっている分野でもある。町会単位のボランティアが地域の中では大事ではないかと思っている。数で評価できない部分もある。地道ながら向上している部分もあるのではないか。

・第4次総合計画進行管理書のP20「6.施策の今後の方向性」に「拠点整備等はずす」とあるが、今後どうするのか。保健福祉センターの建設は、昭和50年代から提言されていて第4次総合計画でも盛り込まれている。赤ちゃんの健診や予防接種を清潔な場所で受けられるという意味で大切な施設である。県内では羽咋市が唯一持っていない。拠点整備をやらないというのであれば次の考えはいかなるものか。

【健康福祉課長】

・指標で「遅滞」となっているものは、ここに載っていない違う指標で見たら進んでいるものもあるだろうが、この指標では現状で遅滞となってしまってい

る。

・保健福祉センターだが、新たな建設は難しいと考えている。しかし、既存の建物に健診や相談の機能を持たせることならば可能だろうし、そのような方向転換が必要ではないかと思う。

【副会長】

・既存の建物を活用してということならば、やはり拠点整備という意味で大事ではないか。コスモアイル羽咋やユーフォリア千里浜が建てられてきたが、優先度で遅れて今日まできている。私なりにも努力してきた。将来を担う子どもたちが健診や予防接種がきちっとした設備で受けられないのは悲しいことだと思う。保健福祉センターを整備するということは（総合計画に）載せていってほしいと思う。

【委員】

・福祉の拠点整備で新たな建設は行わず、既存の施設を活用するという話だが、どの建物で、いつ頃か、具体的な考えがあれば教えてほしい。

【健康福祉課長】

・具体的にはまだ考えがなく、これから検討していきたい。委員の方々にこれらも含めて審議いただきたい。

【委員】

・用事があり、県の農林合同庁舎を借りに行ったことがある。現在、1階と3階が空いている。県の施設は結構空いているところがある。赤ちゃんの健診にどのような施設がふさわしいのかわからないが、少なくとも文化会館の2階の和室よりは、改修すればよくなるだろう。今の状況で新たな建設が難しいのであれば、そういったところを計画に入れていってはどうか。

【企画財政課長】

・県の農林合同庁舎の活用という話だが、現在文化会館の耐震の問題もあり、県、市や他の施設も見て廻っているところ。農林合同庁舎も先般見に行っており、具体的に話は詰めていないものの打診はしている。検討に値する建物だと思っている。

【委員】

・児童数が減ってきているので、空教室があれば利用できないか。

【企画財政課長】

・可能性があるものと考えている。現在、学校統合の問題があるが、跡地利用について議員から意見があった。羽咋中学校は古いが、邑知中学校はまだ新しいので、壊すにはもったいない。健診などに利用できるかどうか庁内で検討していきたい。

【委員】

・場所を探すというのは大事だ。ただ、国や県の施設となれば、その裏付けがあるのかないのか。そのあたりをもう少し議論してもらえればと思う。
・学校で利用が駄目なものもあるだろうが、間に合うところは多いにあると思う。活用できるのであれば、進めてもらいたい。

【アドバイザー】

・低所得者福祉について、生活保護世帯は増加しているのか。また、高齢者世帯で多いのか。

【健康福祉課長】

・昨年度、生活保護世帯は 5 世帯くらい増えていて、近年は 1 割ずつ増えている。しかし、それでも羽咋の生活保護世帯の率は 0.3%にも満たない。全国平均は 1%を超えている。
・確かに生活保護に高齢者世帯が多く、働けなくなった高齢者世帯が多くを占めている。

【委員】

・健康や福祉に困っている方は町内にたくさんいる。民生委員も苦勞されている。公民館の名称を例えば“地域福祉コミュニティーセンター”といった形にして、福祉のウェイトを高くする。保健師を置くとかといった大胆な発想で取り組みれば、羽咋もすごいことをやっているということにならないか。財政的に困難で夢物語ではあるが。

【委員】

・同じ区公民館は活用したらよいと思う。現在 3 世代交流として日曜日に開放されているが、もっと幅広く児童やその保護者である親の活用を見直しながら進めていくと、保健など違った活用もできていくのではないかと思った。

【委員】

- ・第4次総合計画進行管理書の目標値の設定が平成22年度となっている。今後の10年間について何を根拠に話したらいいかわからない。
- ・建築でも200年住宅があるくらいだから、もっと長いスパンで物事を見る必要がある。重箱の隅をつつくような資料では10年間を議論できない。フリートーキングといった形がいいのではないか。

【健康福祉課長】

- ・第4次総合計画進行管理書の目標値の設定が平成22年度となっているのは、これは10年前作成した第4次総合計画の進行状況を確認したもので、それを踏まえて10年先を考えてもらいたい。アンケートや各種データなどご意見を頂くための材料を出している。

【企画財政課長】

- ・この進行管理書はあくまでも第4次総合計画の管理になる。総合計画は漠然とした計画をたてるので、進捗がよくわからない。管理するために数値目標を立てていて、最終年度が今年になっている。進行管理書で総括をしながら、積み残したものの、達成したものを確認して、第5次総合計画にどのようにつなげていくのか。
- ・10年後のまちづくりについて審議会で意見を出してもらえれば、それを事務方で数値目標を定めて管理していきたい。

【委員】

- ・これまでの審議会で出された資料を今一度じっくりと読んでみた。「いきいきプラン21」や「障害者福祉計画」などよくできた施策だと思う。ただ、なんとなく“息苦しい”といった印象を受ける。(第4次総合計画進行管理書のP19、20にある地域福祉についての施策で) ボランティアの「指標の達成度」に「遅滞」が多いが、ボランティアのためのボランティアになっているからではないか。
- ・どんなコミュニティにするのか、まちづくりのビジョンがないからだと思う。施策のための施策になっていて、向うべきところを示されていないから、こねくり回している感じがする。トータルの感想を、概略でもいいから話し合えば、課長の施策の説明に対して、有効な意見を出せると思う。

【企画財政課長】

- ・第4次総合計画では、1、2年で審議して終わりということがあった。第5次

総合計画では、方向性を審議会で示してもらい、数値目標を定める必要があると考えている。どのような指標がよいかは、来年以降に部会のような形で市民の皆さんで数値目標を作るといのように発展していったらと思う。

【委員】

・私もそのような考えでいいと思う。地区懇談会の資料にあるが、「今後 10 年間でどの分野に力を入れればよいか」というアンケート項目の結果が示されている。上位 5 項目が市の重点施策になると思う。

・審議会では、皆さんでフリートキングをして、大枠のビジョン、方向性を示せたらいいと思う。その上に各課の施策をのせていくという方法だったら行政も取組みやすいのではないかな。

【企画財政課長】

・第 5 次総合計画ができあがったら、10 年先に向けて予算をつけていく。現在、市の予算が 90 億円を切っている。取捨選択をし、施策の重点的なものに配分していくことになるだろう。すべてを網羅していたこれまでと異なり、住民の福祉にとって何が大事か吟味をしながら進めていくことになる。

・これからは市民と一緒に協働でやっていくことが大事になる。市民のできるところは市民で、それできないところは行政にといたようにすみ分けが大切。それぞれの役割を持ちながら進めていくことが重要だと思っている。

【委員】

・資料のテーマが大きすぎて具体的すぎて、これまでの審議会では聞くのに一生懸命だった。今回でようやく落ち着いたと思うので、これで意見が出せると思う。例えばお年寄りで独りのもので困っているのは何か、町会でどう対応しているか、老人会でどうしているか、各々の経験にもとづけば意見は出ると思う。

【企画財政課長】

・審議会の進め方だが、各政策の分野ごとの審議が全て終わってから総括しようとして当初計画していたが、3 回程度で一度区切って、中間総括をしてフリートキングをしてもらう。もう一回くらい終わったところで、振り返ってもらって足りない論点は追加してもらう。そのように進めていったらどうかと考えている。

【会長】

- ・老後を国に任せられるのは、後 10 年ということが週刊誌などでは記事になっている。インターネットでは福祉で 180 万件の記事が出ている。こうしたレポートなどを踏まえた議論になる。
- ・地域医療の議論がまだなので、意見があれば出してほしい。

【委員】

- ・地域医療の前に福祉について意見を述べたい。資料に“民生委員”という言葉が踊っているが、私は現在、羽咋市民生委員児童委員協議会の副会長という立場にある。構成だが、民生委員が 69 名、主任児童委員が 14 名、地域福祉員が 51 名。計 134 名で地域を見守っている。
- ・民生委員等がかつて公務員、教員あがりが多かった。昨今メディアの影響もあり、やってあたりまえの福祉に思われている。例をあげると、独り暮らしの方の雪かきをやってあげたりしているが、しばらくやらなかったりすると役所にクレームをつけたりする。
- ・羽咋の福祉サービスは大変進んでいる。健康福祉課で 12 年前にハイエースを購入し、外出支援をするため友胞号として活用した。現在は社協へ事業委託されているとのこと。
- ・県下でも非常に興味を持たれている。安い料金で運営し、医療や施設などへ送迎をしているほか、障害者への移動手段としても活用されていると聞いている。3 年前から健康福祉課で要援護者リストを作成し、民生委員が独り暮らしの世帯を回っている。
- ・“民生委員”と資料に表記されるのはそれでいいが、今後施策を行ううえで、まず先に町会が中心となり主導的役割を果たすのが筋道ではないか。66 町会あるが、進んでいる町会とそうでない町会との温度差がある。進んでいるところでは災害があったとき、独り暮らしの方をどのように避難させるかといったことも検討されている。福祉社会を目指すとき、町会が先導を切り、次に民生委員、住民、ボランティアという順が妥当ではないか。個人の意見として述べたもの。

【委員】

- ・話にあったように福祉は地域が支えるということは重要になってくると思う。高齢化が進み、財政が落ち込んでいく中で、地域の皆で対応していくことが大切。
- ・3 月に関西から移ってきたが、羽咋は以前住んでいたところと比較して福祉が充実していると思う。関西にいたときに、隣町でグループホームを作るという

話が持ち上がったことがあったが、その地域が非常に高齢者ばかりで支えきれないということもあり、結局断った。

受ける地域の環境も大事だなと思った。

- ・家内がボランティアをされていて、老人の世話をしていたりする。ボランティアを受ける方が、してもらって当たり前という意識の中、自分で何かをしようとする姿勢がないのが残念だと言っていた。受ける側の意識改革も重要だと思う。

- ・地域医療だが、関西の以前住んでいたところでは、年寄りが病気になって救急病院に搬送されて、手術できなくて点滴のみという状況になったら、一週間しか病院にいられない。追い出されたら家で往診で対応してもらおう。療養型の病院に行くとなっても、満室で入れないということになる。父は追い出される前に亡くなったが。羽咋病院では救急体制はどうなっているのか。

- ・障害者福祉についてだが、企業も受け皿を整えていかなきゃならないが、限界もある。企業によって生産形態が異なる。障害者は障害に応じて職を求めているので、企業と意見交換して雇用機会を増やすのがよいのではないか。例えば社会福祉協議会などを通じて場を設けていってはどうか。

【健康福祉課長】

- ・地域医療に関して病院の担当課長が不在のため申し訳ないがお答えできない。
- ・障害者と企業とマッチングする機会を設けるとするのは、非常に貴重なご意見だと思うし、今後考えていきたい。
- ・福祉を地域でいろいろ考えていくというのは大切だと考えており同感。
- ・ボランティアが受け身であるということについては、ボランティアが成熟してくれば意識も高まるのではないかと考えている。

【委員】

- ・羽咋病院の受け入れだが、救急は一週間、通常であれば三カ月。これを過ぎると極端に診療点数が下がると出さざるをえない。父も母もお世話になったが、サービス推進室というのがある。院長の考えで、診療点数度外視で相談できる部署を設けている。そこには健康福祉課の保健師や病院のドクターも入る。どこがいいか、自宅がいいか、老健がいいか、医療施設がいいか希望を聞き、紹介している。よい形でやってもらっていると思う。

【委員】

- ・問題は受け入れるところがないこと。(関西の以前住んでいたところでは)療養型の病院もいっぱい。往診の医師も見つからない。羽咋市はそういったとこ

るも整備されているならば素晴らしい。

【会長】

- ・羽咋病院への税金の投入はどうなっているのか。

【企画財政課長】

・公立だが、一市二町の広域で運営している。分担金を納めているが、平成 22 年度で 1 億 7 千 5 百万円を負担していて、羽咋市は 80% 占めている。あとは羽咋病院の経営努力でお願いしているところ。能登の中での地域医療を占める役割は大きいですが、今後市民が地域医療の重要性をどう捉えるかで投入する税金の大きさも変わってくる。院長をはじめ頑張ってもらっていて優良な経営をしている病院ではある。

【委員】

- ・今、私が羽咋の福祉サービスが優れていると実感している。義理の母を自宅介護が難しい状況になり、病院を出たり入ったりしているが、ケアマネージャーがよくやってくれている。こういった仕組みはよくできている。
- ・施策自体に不満があるのではなく、施策のための施策になってしまっていて残念に思っているだけ。

【委員】

- ・福祉の行き過ぎは気をつけるべきだと考えている。高福祉、高教育、高医療。そこには隠れたタブーがあるのではないかと。
- ・知り合いで百数十万円の中古車を買って、2LDK の駐車場付きの市営住宅に住んでいる。65 歳過ぎていてから 1 万千円でいいとか。食事もいいものをとっている。生活保護を受けていないのに、3 万円ほどとってもいいのではないかと。
- ・福祉であればおんぶにだっこということのほうはどうか。耳が聞こえないとか目が見えないとかで（本当は健常者であるにも関わらず）手帳をもらっているものもいると聞く。合法的にサービスを受けるのはいいが、福祉の行き過ぎは注意すべき。
- ・羽咋はボランティアごっこ、まつりごっこして浮ついているようにも思う。
- ・町会も問題。町会長は 65 歳以上でやりたくないといいながらやりたがる人がやっている。全部とは言わないが。町会長の負担が大きい。仕事もっている人はできずに年金をいっぱいもらっている余裕のある人しかできない。行政が町会に押しつけ、コントロールしているのは問題。

【会長】

・地区懇談会の資料に人口の推移があるが、65歳以上の人口がすごい。10年経ったらどうなるか。現在、ボランティアも含めて成り立っているが、10年後を考えると寒くなる。こうしたことも踏まえ提言を頂きたい。

【委員】

・10年後を考えると、父のような団塊の世代が退職して、隠居する時代。これまでのようにあれもこれもじゃなくて、抑制しながら必要なサービスを必要な人にとしないと、持続できなくなる恐れがある。青年会議所でも話しているが、今後は選択と集中で乗り切るしかない。

・次の世代の子どもが生まれるための産婦人科が羽咋病院になくなっている。私の同世代の女性は、他の地域で産んでくる現状。子どもが生まれないと未来がないし、町が滅びる。福祉を抑えてそうしたところに予算を振り向けてほしい。

【委員】

・地域医療について、「小児科、産婦人科の医療体制の確立」とあるがどのように進めていくのか教えてほしい。

・二人の幼稚園児がいるが夜に中耳炎とかよくなる。当番医を確認して、七尾までいくこともある。羽咋で受診できる体制にしてほしい。

・若いお母さんが羽咋で産める体制にしてほしい。

【委員】

・障害者の施設にボランティアで関わっているが、今まだ通所を希望する人がいるのであれば、空施設などを利用したらと思った。ただそうすると、携わる人も必要になり、若い人が少なくなる現状を考えると心配になる。

【健康福祉課長】

・知的障害者の通所施設としては楽生とあおぞらがある。この2カ所でカバーできると考えている。就労などの相談を受ける場も設けてあるので、整備はされているものと思っている。

【委員】

・地域医療について。農協は氷見市の農協と提携をしているが、氷見市の公立病院は金沢医科大学が運営している。氷見まで20分で行ける。隣と提携できないか、できるのであれば進めたらどうか。

【委員】

- ・障害者の方々には空施設を利用したらいいのではないかと思う。
- ・お年寄りが快適に過ごすために大事な地域のコミュニティが現在欠落していると思う。若い人が出ていき、独り暮らしの老人が増えていて、町会や地域のつながりが求められていると思う。神社とかお寺とか最近は縁遠くなっているが、こうしたところを十分活用しながら、行政にただ頼るのではなく、皆で考えていけたらと思う。

【委員】

- ・私の体験で、父が羽咋病院にかかったとき、「こんなぐらいで救急車に乗ってこんでもいいのでは」と先生に言われてがっかりした。家内が夜中に心臓の調子を悪くし、羽咋病院にかかったら薬が医科大のものだったのを見て、なぜ羽咋病院に来ないのかと言われた。かっとなることもある。謙虚な気持ちで診療を行ってほしい。
- ・地域では、子どもが少なく、老人に馬力がある。少子化の影響が出ている。昔は子ども会が老人を呼んでいたが、今は逆になっている。
- ・今後10年間で議論するということが、なかなか核心に触れられない。横断的に考えるのも大事だが、中能登町のように「教育は文武両道」と新聞に出るようなインパクトも大事なのではないか。

【委員】

- ・福祉においては、お互いに助け合う精神が大事だと思う。設備にしても人にしても、まかないきれないことがある。専門的にはいろいろあると思うが、基本的にはそういった精神が大事だと思うし、それ以外にないと考えている。

6. 次回会議について

【事務局】

- ・第4回 8月6日（金） 19時から

7. その他

【事務局】

- ・次回終わったあとで、中間の総括をさせてもらいたい。

8. 閉会